

I N D E X

巻頭文

高橋 聡代表代行

山想倶楽部山行記

2011 年

4 月：秩父巡礼の山旅	石岡慎介
6 月：九重山にミヤマキリシマ鑑賞する山旅	石原達夫
7 月：針の木より烏帽子縦走始末記	高橋 聡
8 月：黒部源流の山旅	石原達夫
9 月：小春日和の餓鬼岳登山、風雨を突いての燕岳縦走	日出平洋太郎
10 月：日光白根山と尾瀬ヶ原	石原達夫
10 月：四国の山旅	石原達夫
12 月：妙義山（忘年山行）	武田頼子
荒船山（忘年山行）	石原達夫

2012 年

1 月：新年会	高橋 聡
---------	------

個人山行

3 月：北八ヶ岳	中川秀利
3 月：唐尾峠	横田昭夫
4 月：台湾・玉山	横田昭夫
5 月：中央アルプスの三の沢	石原達夫
6 月：台湾・南湖大山	中川秀利
10 月：台湾・秀姑巒山	中川秀利

2012 年

3 月：台湾・北大武山	中川秀利
-------------	------

表紙写真：折立（双六）

撮影：川井靖元

裏表紙写真：草津白根山のコマクサ

撮影：川井靖元

巻 頭 の 言 葉

代表代行 高橋 聡

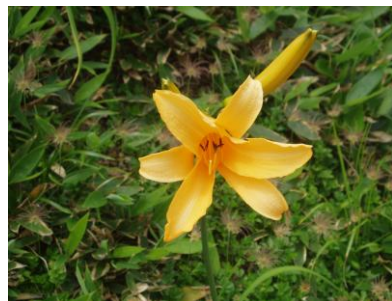
石原代表より今回発行する倶楽部記念誌 Vol:8 号を発行するに当り、前回 Vol:7 号の巻頭言は私が書いたもので、高橋君が代表代行なので、今回は貴方が書いてくれと言われたが、はて何をどのように書いたら良いのか、この様な文を書くのはどうも苦手である。

私が最初に山想倶楽部の山行に参加したのは、平成 19 年の 10 月に行われた黒部の下の廊下山行である。此の山行は前年に企画され、以前より付き合いのあった前中川代表より一緒に行ってくれないかと依頼され、私自身此のルートに行ったことがなかったので、いいね、行くよと返事をしていたのだが、残雪が多くルート整備が充分でなかったので中止され、持ち越しとなり実施されたものであった。

此の山行には、確か 20 名近くの参加が有ったような記憶が有り、顔見しりの山岳会会員も数名参加されており、天気も良く大変楽しい山行を共にさせていただいた。

これが契機となり当時の中川代表より山想倶楽部に入らないかとの誘いを受け入会し、翌年より世話役の一員となり、23 年の妙義山での忘年山行で石原代表より代表代行をお願いすると言われ、石原代表とよく山行をご一緒させていただいているので、断る事も出来ず現在に至っています。

山想倶楽部も 02 会として発足し、発足当初はメンバーも 100 名以上おられたようですが、現在の在籍者は 60 名程度となっております。此の倶楽部も本年度で 11 年目となり、メンバーも御承知のように高齢化が進んでおり、一日で 10 時間も歩くというハードな山行は、かなり厳しくなっております。又倶楽部で企画された山行に参加するにしても、距離や日程の問題で中々参加しにくい事もありましようが、ハードな山行だけでなく、歩行時間が 2－3 時間というゆっくりとしたお花見山行等も実施していますので、ぜひ時間を作っていただいて、これからも皆さまと共に、楽しい時を過ごせるお手伝いが出来ればと念じております。



秩父巡礼の山旅

倶楽部企画/ '11/4 月山行

記：石岡慎介



山行日： 2011年4月9日（土）～10日（日） 1泊2日

コース：

9日 秩父札所 27 番、大淵寺にて東日本大震災犠牲者の霊に黙祷、琴平ハイキングコースを、琴平神社～羊山公園。浦山山荘泊

10日 蕎麦打ち実習、若皇子ハイキングコース、清雲寺、若皇子神社から浦山ダム。

浦山山荘にて清談

参加者：9名 石岡(L)、高橋、小亀、武田、中野、石原、(本部より)下河辺、吉永、平井
毎年巡り来る観櫻の季節、秩父浦山口の山荘を中心にして札所の慰霊巡行と秩父丘陵歩きが無事終了しましたので報告します。一泊2日と日帰り組合体で、9～10日少し肌寒さもありましたが、400メートルほどの登りの里山急登は結構初春の汗もかきました。山荘の秩父岩石風呂を堪能しましたが、秩父人の巨岩信仰のように観えました。

震災余波もあり、12名が9名と急変しましたが、東海地方から女子2名、集会委員会2名、千葉支部、公益法人ご担当も加わり豊かな山想共同体となり大層にぎやかなJACクラブライフとなりました。

倶楽部の人財交流の広さが認識されるイベントでした。

さて行程概略は：

9日 西武特急に揺られ西武秩父駅より27番大淵寺に直行し、代表より幾万の受難者に哀悼の言葉を捧げました。昭和電工の工場内を認可通過し琴平神社に参拝し26番奥の院岩井堂などで祈りをささげ琴平丘陵のハイキングコースに入りました。京都清水寺を模して江戸中期に建立されたようです。秩父修験道の峻しい細道になっており、昔日を偲びました。アップダウンを繰り返して二時間半くらいかけて芝櫻で名を売った羊山公園に出ました。芝櫻は早く一帯は櫻の園でしたが、時節柄混雑していませんでした。迎車に乗り込み、東海女性が秩父里山武甲山登頂の希望がありましたので、武甲山資料館を組み込みました。なぜセメント原料石灰岩の山が秩父に生成したのかカンブリア紀まで遡り勉強する皆さん知識欲旺盛でした。今はやりのプレート生成押し合い、へし合い期に関係しているようでした。自慢の秩父銘石風呂に入り、大震災の御霊に献杯晩餐となりました。

10日 山荘隣の29番長泉院札所のたたずまいに心あらたに祈りを捧げ、北斎の櫻納額を拝観しました。田舎道を歩いて九時半清雲禅寺を訪れましたが、樹齢600年の枝垂れ櫻はじめ壮麗な櫻の里でした。ここは徳川恩顧の代官一派に襲われた京都公家暗殺の現場でしたので、犠牲者の血を吸い尽くしたような櫻の妖しい古木でした。

2日目到着の仲間を10時に迎え、昼食準備をかねて、蕎麦打ち道場に入門しました。三たて蕎麦の味に各位は至極満足のような様子でした。

腹ごなしに禅寺裏門から若御子山に入ります。ジグザグの急登で、PRされたような遊歩道どころではありませんでした。中腹の国見の広場くらいまでにして秩父さくら湖を視界にに入れて下山しピックアップしてもらいました。また山荘で汗を流し、打ち上げ献杯反省会です。九人がそれぞれご自分の想い、情熱を語ってくれましたが、普段は聞けないJACの内幕も開陳されました。

大震災で思いですが、「生と死は大自然のひとかけらにすぎぬ」と言い残して岩稜を飛び降りた 隣国大統領がおられました。元気一杯一緒に歩ける仲間に感謝したい秩父巡礼でした。



九重山にミヤマキリシマ鑑賞する山旅

倶楽部企画/ '11/6月山行

記：石原達夫

期日：6月12日－6月15日

参加者：関口(L)、寺田、広島、伊藤(会員外) 石原

6月12日： 福岡空港に集合 10：15、雨の降りそうな中、関口さんの車に乗り込む。

高速に入るとまもなく雨となり次第に強くなる。関口さん是一向に気にすることなく悠々と運転される。途中、北熊本 SA にレストランでだご汁定食など食べる。高速を熊本で降り、一般路に入る頃にはただ事ではない降り方となる。阿蘇神社を過ぎる頃には雨も小降りとなる。やまなみハイウェイをたどり、ようやく今日の目的地の牧ノ戸温泉・九重観光ホテルに着く。この頃にはさしもの豪雨もおさまり、ホテルのロビーから三俣山方面の山にかかる大きな虹は、明日の天気の回復を確約するようだ。大雨のためホテルの温泉は温度が下がり使えず、ホテルの車でビジターセンター近くの西鉄ホテル「花山酔」に湯をもらいに行く。九重観光ホテルには、山岳会の大先達である榎有恒氏ゆかりの品々が展示されている一室が有り、興味深く拝見した。ホテルのご馳走に満足し、早めに床に入った。

6月13日； 晴とはいえないにしても、まあまあの天気となる。関口さん手配のタクシーに乗り込み 8：00、登山口に向かう。多くの人が登る牧の戸峠を過ぎ、下ることしばし、瀬の本登山口に至る。ここを出発し（8：15）、二度目の小休止の辺りから灌木帯となり、霧の中に待望のミヤマキリシマがそこそこに現れてくる。

関口さんの適時な説明を聞きながら扇ヶ鼻（10：56）につく。ここまでは関口さんのお考えの通り誰とも会わない静かな登山道であった。



牧ノ戸からの登山道を合流すると（11：30）急に登山者が増えてくる。広場のような久住分れにて昼食（12：10-12：40）、いよいよ久住山の登りとなる。元気な高校生の一団が三々五々駆け下りてくる。山口県の私立鴻城高校の1年生と聞く、約200名の参加だそうである。元気一杯の大きな声で挨拶しながら行き過ぎる若さが羨ましい。霧の久住山 1786.5M の山頂にて休憩（13：10-13：30）、下って増水した御池をまき、登り返して九重山系最高峰の中岳 1792M（14：25）に至り、



続けて、いかつい山容の天狗ヶ城山頂を経て、さきほどの久住分れに戻る。ここからは下り一方となり、開けた北千里浜に出る。折からの風向きで硫黄岳の噴煙が流れ込み臭気が強いので早々に通過する。



ゴリラそっくりの猿岩を過ぎると、広々とした「坊がつる」とその手前に今日の宿泊地の法華院温泉が遠望出来る。谷沿いの急路を下ると、やがて法華院温泉山荘であった（16：55）。温泉でひと汗流すと夕食になった。食事の際、隣り合った北海道から

来た3人組と親しく話をする。

6月14日： 湿度が高いせいか遠望はきかないが、具合良く晴れとなる。朝食後ゆつたりと出発する（7：30）。「坊がつる」のキャンプ場を抜けると樹林帯に入り登りとなる。小休止をはさんで、展望のあまりきかない単調な登りをたどると、ミヤマキリシマ群が現れ、開けた段原（たんばる）に至る（9：35-45）。ここからは急な岩の間の登山道をたどり大船山山頂に着く（10：10-10：20）。



一休みの後、段原に戻り、ミヤマキリシマの花咲く中を右手に浅い米窪を巡るようにして北大船山につく。ここからは樹林帯となり急な溝状の道をひたすら下る。平治岳（ひいじたけ）との鞍部になる大戸越（うどんこし）に至ると大勢の登山客が休んでいる。目の前の平治岳は山頂に至るまで一面のミヤマキリシマで覆われていて、まさに圧巻である。ここで法華院温泉の弁当を開け昼食とする（11：40-12：20）。大勢の登山者と共に一方通行の花の登山路をたどる。ミヤマキリシマの樹は丁度胸の高さで、花を間近に見ながら登ることになる。ともかく花一杯の中を平治岳山頂 1643M に至る。



ミヤマキリシマを満喫し渋滞の下山路を大戸越に戻り、満足してお茶タイムとする（14：00-14：20）。急ではないが歩きにくい樹林帯の道をたどり、朝通った「坊がつる」キャンプ場に戻る（15：10）。これから三俣山を大きく巻くように作られた九州自然歩道をたどる。出だしはいかにも整備された自然歩道だが、先では上り下りのある普通の登山道となる。途中の「雨が池」を見る程度で2時間以上を殆ど休むことなく歩き、ようやく長者原のタデ原自然観察路の一角をたどり、今日の最終目的地、ビジターセンターに着く（17：25）。ここから、関口さんの車にて九重観光ホテルに帰着した（17：40）。充実の、しかし長い一日が終わった。ゆったりと温泉につかり、遅めの夕食となる。

6月15日：天気予報通り天気は下りとなり、朝食が済む頃には雨となる。昨日までは余勢



を駆って、由布岳を登ろうかといったが、雨では残念ながら次回に回すことにする。ホテルをゆっくり（10：00）出て、まずは長者原ビジターセンターで展示物やビデオで九重山群の勉強をする。1時間ほど過ごした後、今話題の自然エネルギー利用の代表である九州電力の地熱発電所を見学する。九電は6カ所の地熱発電所を稼働させているが、この八丁原発電所は、

1号機、2号機を合わせて11万キロワットの発電能力を持つ日本最大の地熱発電所（熱利用効率の高いダブルフラッシュサイクル方式）である。女性の説明員の設備の説明のあと、発電建屋に案内され、稼働中のタービン、発電機を見学する。（11：35-12：35）。日本は火山国なので、このような地熱発電設備はもっと沢山あっても良さそうだが、八丁原のような、大量の安定した蒸気を取り出すに適したマグマ溜まりの構造を持つ地形はそう滅多に存在しないとのことであった。しかし新設の八丁原バイナリー発電所は、蒸気だけでなく地熱を気化媒体に移してタービンを回す新しい装置だそうである。これだと立地はそう難しくはなさそう。そういえば九重観光ホテルは1000キロワットの自家地熱発電装置を持ち全館の電力を賄っているという。次に九重大吊り橋に行く。昼食が済む頃に、雨がやんだので「天空の散歩道」の吊り橋を往復する（13：40-14：10）。長さ390M、高さ173M、実効幅1M余だが、風が吹いていてもほとんど揺れない堅牢な作りの観光目的の吊り橋である。

橋の途中から日本滝100選に選ばれた「震動ノ滝（雄滝、雌滝）」が見られる。これで今日の行事は終え、帰路となる。

九重インターより大分自動車道に入り、途中山田SAで荷物や服装を整え、福岡空港に着く（17：15）。これにて内容の濃い花の山行が終わった。



謝辞

この山行は北九州支部の関口興洋氏の

の好意で実施することが出来た。

関口氏は山行の企画、宿の手配、リーダーの大役を務められたばかりでなく、自動車の提供、移動中の一切の運転までされた。参加者一同深く感謝の意を表する。

針の木より烏帽子縦走始末記

倶楽部企画/ '11/7月山行

記：高橋 聡

山行日 2011年7月28日（木）～8月1日（月）

参加者 6名 高橋 聡（L）、石原達夫、広島孝子、醍醐準一、吉永英明、田谷八束

7月28日

新宿 22:30 出発のさわやか信州号で出発。同じ便に田谷さんと乗り合わせる。バスは 23 名しか乗ってはず、隣の席が空いているので、楽と言えば楽だが、それでも足を十分に伸ばして寝れるわけではないので、きついものが有る。途中中央高速道路の談合坂、下諏訪でトイレ休憩の後 22 日午前 5 時前に、今回登山の出発地点で有る扇沢バス停に到着。しょぼしょぼと雨が降っている。

7月28日

同行者は、石原達夫、広島孝子、醍醐準一、吉永英明、田谷八束と私の 6 人で有るが現地集合なので各自がバラバラの集合である。醍醐氏は昨日より入山しており、柏原新道より種池を経て、新越乗越小屋で昨日は泊り、明日針の木小屋で待ち合わせである。

石原、広島の両氏は夜行で来るのは御免と昨日は大沢小屋に泊っている筈。吉永氏も昨日昼に出発し大町の何処かで泊っている筈。

吉永氏とは扇沢バス停 6 時待ち合わせなので、まだ一時間近く待ち合わせの時間が有るので、その間ゆっくりと朝食を摂り、彼が来たら直ぐに出発できるようにしておこう。

雨が段々酷くなる。6 時少し前に吉永氏がタクシーで到着。すぐに大沢小屋に向かって出発、案内書には扇沢－大沢小屋 1 時間 30 分と書いてある。何とかそれくらいで着くだろう。

針の木方面入口に有人の登山案内所が有ったので、登山届を出して山の状態を聞いたら、船窪より七倉へは降りられるが、烏帽子より高瀬ダムに降りても、不動沢の吊橋が連日の雨で流されてしまい、天気が良くなると修理できるが、雨が降り続くと当分修理不可能と告げられた。大沢小屋に 2 人が待っているの、其処まで行き今後どうするか決定しますと言って上がっていく。

本日は針の木小屋までの予定である。雨が降っているの、休憩を取る気にもならないのでゆっくりと歩み、案内書通り 1 時間 30 分で大沢小屋に着いた。既に先行していた石原、広島の両氏は出発の用意を完了し待っている。

石原氏は開口一番昨日よりお腹の調子が悪くて仕方ないので、申し訳ないが本日はここより下山との事。大沢小屋の人に雪溪の状態を聞いたら、たぶん雪溪の上を川のように水が流れていると思うとの事。明日、明後日も一日雨、それとかなりの風を伴っている予報。針の木小屋迄はどうとなく行けるが、翌日の行動を考えると雨の中蓮華岳を下るのも、石畳みと言うよりもガレ場を下る感じの所なので、足をすべらせやすく、船窪から烏帽子岳までの路も天気が良ければ何でもないので、雨が降っていると、かなりぬかるむし、又

視界不良となった時は、ルートが判然としない部分もあること等いろいろ考慮した結果、今回の山行はここで終了とすることに決定した。

まだ午前 8 時間前だ。今から下りても仕方ないのでここでゆっくりして行こう。醍醐氏の行動が気に懸かる。心配しても仕方ないか。

この大沢小屋でゆっくりしていると続々と針の木小屋に揚がる人たちが上がってくる。20 名位の団体で四国から針の木小屋に泊り針の木岳と蓮華岳の登り往路を下るメンバーや、同じような行程の人たちが圧倒的に多い。中にはうら若き少女の様な女性

（私ども高齢者から見たら）が単独でテントを担ぎ、折立て迄行くという人もあり、天気が悪いので十分に注意をしていく様にと、いろいろいらぬアドバイスをしながら時の過ぎるのを待つ。

やっと 12 時だ、そろそろここを引き上げて扇沢に帰るとするか。

帰路は 1 時間で扇沢に到着。扇沢に着く少し前に大塚副会長より電話が有り、醍醐氏はあまりにも天気が悪いので、本日は新越乗越より扇沢に下りると言う電話が有ったとの連絡あり、うまくすると扇沢で会えるかも知れない。扇沢に着くと何と何と醍醐氏の出迎えを受ける。

扇沢より大町温泉郷の共同浴場の薬師の湯までバスで行き、1 日乃至 2 日の汗を流し解散とした。

吉永、田谷、高橋の 3 名は本日入山したばかり、なんとなくこのまま帰るのはと大町温泉郷のホテルからまつ荘に一泊する。

黒部源流の山旅

倶楽部企画/ '11/8 月山行

記：石原達夫

山行日 2011 年 8 月 6 日（土）～9 日（火）

参加者 3 名 石原達夫、他会員外 2 名

山行報告

コース概略 富山駅～折立－太郎平＝薬師岳往復、太郎平小屋(泊)－北の俣岳－黒部五郎岳－カール－黒部五郎小屋(泊)－三俣蓮華岳－双六岳－双六小屋－弓張岳－鏡平山荘(泊)－わさび平小屋－新穂高温泉～松本駅

8 月 6 日

予め予約の富山駅 6:10 発の折立行き直通バスに乗る。乗客は登山者ばかりで 20 名くらい。バスは有峰ダムで時間調整し、小雨の中 8:15 頃折立に着く。辺り一帯道路まで多数の車が止めてある。雨具に身を固め、折立登山口 8:30 出発する。



師岳往復をしようと 13:20 に出発する。東南稜の頭にさしかかる頃、雷鳴と共に雨となり、雨具を付ける間もなく猛烈な降りとなる。これより先は、風雨を避ける場所もない稜線になるので、前進を断念し太郎小屋に 15:40 に戻る。

折から各方面からの到着者や、大雨のため



三角点に出るまでの樹林帯の急登で、雨具の下は汗でびしょりとなる。木道の出る辺りで、雨が止んだので、早い昼食とする。あたり一帯は、ニッコウキスゲと綿毛となったチングルマの群落である。13:05 に太郎平小屋に着く。若干の展望もきくようなので、薬



予定の前進あるいは下山を断念して宿泊する人たちで、小屋は大混乱の状況となる。臨時診療所の医師まで出て対応に大忙しだ。狭くもない乾燥室は濡れ物で一杯、あたかも海草の乱立密集する海底のようだ。結局布団 2 枚に 3 人程度のスペースに押し込まれる。雨の止み間をぬって県警のヘリコプターが飛来する。

病人と怪我人の収容だそうだ。明日の天気予報は1日中雨という。

8月7日

朝は晴れ間の見えるまあまあの天気、5:30に小屋を出る。北ノ股岳までは2時間の登りで予定通り。今日は余裕があるのでこれからはゆっくりとあるく。一面のお花畑で、ハクサンイチゲ、ミヤマダイコンソウ、ヨツバシオガ、ハクサンフウロ、等々が咲いている。地図で見るよりすっきりした赤木山(8:30)にいたれば、眼下には、たおやかな黒部源流が広がり、視線を上げれば薬師岳から雲の平、赤牛岳、水晶岳、鷲羽岳の雄大な姿が目に入る。ここからは下りとなり小さなピークを越えて、中俣乗越に至り大休止とする(9:00-9:15)。ここからは、黒部五郎岳の登りとなる。天候は徐々に悪化し、展望はきかなくなる。雨の降る前にと、2500M地点で早めに太郎小屋の押し寿司弁当の昼食をとる(10:30-10:50)。間違いなく午後は雨になるので急ぐことにする。長い急登の末、黒部五郎岳の肩に着く(11:50)。既に雷鳴を聞くようになり、ここからは雷撃の危険度の高い稜線伝いのルートは諦め、より安全なカールルートに入ることにし、その前に山頂を往復する。



気がつけば雷鳥一家が側を歩いている。ついに雨となったので、雨具を付け、カールルート降り口方面に稜線を辿る(12:10)。この頃には雷鳴も一段と近くなる。稜線からカール底に向かう斜面に至って、一安心と思ったとたんに、雷光と雷鳴が同時に襲い、差していた傘に帯電したのか、パチンという音と共に持っていた手が痺れた。直ちに傘を投げ捨て、同行者にも金物

は手放すように云い、暫く身を低くかまえる。そのうちに雨が強くなってきたので、雷撃の心配は少なくなったと考え、行動を開始した。未だゴロゴロと雷鳴が響き、雷雲が黒部五郎岳の上に止まっているようだ。見上げると黒部五郎岳の肩で食事をしていた後続のパーティが、やっと稜線を離れて無事にカールに下ってくるのが見えた。雨は強くなったり弱くなったりで、カール底のごろごろした岩の間(羊群石)の間を、勢いを増す水流を避け歩く。岳樺帯に入る頃には小降りとなる。やっと五郎沢左俣の広い沢が見えると、黒部五郎小屋についた(14:00)。途端に凄まじい雨となり、一時は小屋にも水が浸入するのではないかと思われる勢いであった。後続パーティはなかなか到着せず、心配していたが15:00頃、全身ずぶ濡れで続々と到着した。登山路は完全に川となり、歩行はかなり難渋したそうで、靴の中まで水浸しであった。夕方には雨は上がったが、展望はきかない。今日は余裕で1人布団1枚であった。

8月8日

同行者に起こされ、目を覚ましたら 5:12、急いで食堂に行くと 1 人分だけ食事が残っていた。昨日から食欲がなく、おかずだけ食べてすぐ出発する(5:35)。天気は高曇りで青空も見えるが、天気予報は一日中雨とのこと。半分寝ぼけ気分で三俣蓮華の急坂を登る。眼下に瀟洒な黒部五郎小屋が見える。



昨日の同宿のパーティから山の説明を求められる。くつきりではないが槍の 3 つの鎌尾根が見える。雲ノ平小屋も小さく見える。眼下には赤い三俣蓮華小屋が見え、県警のヘリコプターが降りてきている。これから南に進路をとり、稜線伝いに双六岳にむかう(8:20)。



ターを買い、すぐ出発。上り下りを繰り返し、休まず弓張乗越に着く(12:10)。ここで昼食だが食欲がなく、ジュースだけ飲む(12:30)。時間的にはわさび平までいけるが、鏡平から眺める朝の絶景を期待して、少し到着時間が早い今日は鏡平小屋に宿泊と決める。初めの池を過ぎると、美しく池に写る鏡平小屋が現れる。橋を渡って小屋には 13:00 に少し前に到着する。今日は宿泊客が多く布団 3 枚に 4 人とのこと。チト当てが外れる。小屋では昼食としてうどんを食す。午後一杯は少し雨のぱらつくことはあっても、大体が曇りで

1 時間も登ると稜線に出て、その先に三俣蓮華岳の頂上が見えてくる。山頂に着くと大勢の登山者がいて、見渡すかぎりの山々のパノラマを眺めている(8:10)。



見えていた槍から穂高までの稜線はいつの間にか深い霧に消える。山頂(9:30)から双六小屋に向かう幅広い尾根を、雷を気にしながら行くと、20 名位のツアーパーティと行き交う。皆黙々と歩いているが、楽な迂回路の多いこの辺りを、山頂経由出行こうというのは立派だと思う。双六小屋は登山路の交差する所だけに、大勢の登山者が休んでいる(10:20)。ピーチネク

4:30の夕食まで食堂のベランダで過ごす、但し展望はない。夕食後は、展望は依然としてないものの明るくなった外で、暫く過ごす。

8月9日

4:05に起床。身支度を調べ、4:30より始まる朝食の列に並び、おかずだけ食べる。外は槍から穂高までの黒々としたシルエット。良さそうな天気で、鏡平に泊まった甲斐があった。



前方に乗鞍と御岳が重なって見えてくる。

この辺りには早くもトリカブトが咲き、クルマユリも見かける。一面イタドリだけ生えている不思議な所を過ぎ、快調にとぼして林道

に出る。わさび平小屋では一休みし、またネクターを買う。これから先の林道では次々と登ってくる登山者に挨拶を交わし、穴毛沢の第1、第2尾根の岩峰が見えると間もなく、新穂高温泉のバス停に着く(8:25)。例の如く温泉に入り汗を流す。同行者は急ぎの用事があるのか、8:55の高山行きのバスに乗る。松本行きのバスは11:30なので、早い昼食を食べたりしてゆっくりと過ごす。

毎日午後は天気が悪く、雨具を離せない山旅であったが、体調不良ながらガイドブックの時間内に歩けたことがうれしかった。

5:00少し過ぎに出発。池に映る槍から穂高の稜線を眺め、足を進める。日の出と共に、



小春日和の餓鬼岳登山、風雨を突いての燕岳縦走

倶楽部企画/ '11/9 月山行

記：日出平洋太郎

山行日 2011 年 9 月 28 日(水)～10 月 1 日(土) 3 泊 4 日
集合場所 信濃大町駅側の「ニュー竹の家」 28 日中、適宜
コース 29 日：大町駅前=(タクシー)=白沢登山口→大風山→餓鬼岳小屋⇄餓鬼岳頂上
30 日：餓鬼岳小屋→剣ズリ→東沢岳→東沢乗越→燕岳→燕山荘
10/1：燕山荘→(合戦尾根)→中房温泉駐車場=「しゃくなげ荘」=穂高駅
歩程 29 日 (8 時間 20 分)、30 日 (7 時間)、10/1 (2 時間 10 分)
参加者 3 名：L 石原達夫、醍醐準一、日出平洋太郎

9 月 28 日 (水) 晴。集合は旅館ニュー竹乃屋(信濃大町駅側)。素泊りだから、寝に行けばいいだけである。参加者が少ないので誰か行きませんかとの石原 L の呼び掛けに応じたのだが、はたして参加者は他に居るのであろうか。信濃大町の竹乃屋には 21 時半頃着いた。番頭さん？はボクの顔を見るなり、貴方が最後、素泊りの¥4,200 を払ってと前払いを要求して 2F の部屋に案内してくれる。先着の石原、醍醐両氏は布団を敷き、寝巻きに替えてもう寝るぞの体勢である。もう一人居る筈の高橋(聡)さんは、体調不良で欠の由。結局、石原さんの呼び掛けに応じた者は他に居らず、彼の抜けた穴を少しだけボクが埋めたにすぎなかったようだ。風呂はトロン温泉とか、理解できない説明文があったが、24 時間 OK の素晴らしい温泉だ。ともかく明日は早い、風呂から出ては直ぐ寝る。

9 月 29 日 (木) 快晴。今日は白沢登山口から餓鬼岳まで高度差 1,600m を登らねばならない。ブナ立尾根もそのけの高度差である。頑張らねばならない。

5 時半起床。少し早く宿を出て玄関の上を見上げれば大きく「旅籠」とある。何が「ニュー」だか分らない、ここは「旅籠」が相応しいのと思う。駅前のタクシー会社まで歩いて 5 分、石原さんが予約していたタクシーが既にスタンバイだ。6 時タクシー発、6:22 白沢登山口(標高 1,000m 弱)着、¥4,200。各自、備え付けのベンチに座って弁当で朝食。



白沢登山口

6 時 40 分出発、石原さんを先頭に日出平、醍醐の順で白沢沿いの道を行く。途中で滝を眺めるのも気分転換、最終水場(8 時 50 分、標高 1,500m 位か)まではまあまあの調子で登れた。時々デジカメで写真を撮る余裕もあったが、写真を撮る 3~4 枚撮った時点で電池交換のサインが出た。知らぬ間に動画になって電池を消耗したためだ。カメラを懐に入れて休ませれば 1 日 1 枚くらいは撮れるだろうか。

最終水場からは、傾斜も急になり、ザラ場が出てきたり

して歩き難い。石原さんのペースは全く同じに見えるが、フォローするわが方は少しずつ遅れ出し、醍醐さんと代って、シンガリに付く。時折り、下山者と擦れ違う。単独行が多いが夫婦組や母子らしい組もいる。下界(安曇野)を振り返ればたわわに実った稲穂が黄金色に輝き、この秋の豊穡を約束しているようである。風もなく、恐らく下界は小春日和に違いない。明日は雨という予報が信じられない。11:36 大風山、尾根の肩に出たと云った程度で、山という程のことはない。思い付いて携帯カメラで道標を1ショット。

百曲りを過ぎて小尾根を回り込む(14:20)と見上げる稜線に餓鬼岳小屋が浮き上がって見える。先行していた二人が待っていてくれた。

14:30 出発、この夏の猛暑の名残りだろう、ダケカンバの葉もまだ緑を残し、ナナカマドも赤いのは実だけである。西日を浴びてダケカンバの幹は眩いばかりに輝いている。

15:04 餓鬼岳小屋到着。一泊2食¥9,000。ざっと15人くらいの登山者がいてその多さに驚く。部屋は別棟に3人だけ、これが有り難かった。少し休んで餓鬼岳へ、15:15 頂上着。



餓鬼岳頂上



大風山

人が多くて、頂上写真は順番待ち。山々は一望千里に足下のダムまでよく見えた。

17 時からの夕食は母屋で。五目御飯に釜飯器におでん、デザートは半割り

のグレープフルーツと失礼ながら予想外の美味しさだった。

9月30日(金) 風雨

朝起きて外を覗いたらもう雨が降っている。予報通りとはいえ、昨日の無風快晴を思うとやはり残念である。

5:30 朝食。数えたら18名と一緒に食事。大方は昨日我々が登ってきたルートを下る模様。石原Lは観天望気、風はさほどではないと燕岳行きに決める。

6:20 雨支度に身を固めて出発したが小雨程度で大した事はない。前方に鋭い三角錐のような剣ヅリが霧に霞んで城砦のように立ちはだかっている。その内、雨は止み日も射してきて、裏銀座尾根や右下に高瀬川ダム湖まで見えるようになってきた。これは晴れるかなと思ったが期待を持てたのはそこまでで、とうとう本格的な風雨になってきた。岩尾根のヘツリや梯子など視界不良の中を黙々と進むのみ。突然の風に帽子を飛ばされたのは出発してから 40 分ほど経ったそんな時だった。7:17 剣ヅリ、10:03 東沢乗越、12:48 燕岳頂上、全くの霧の中で石原さんに証拠写真だけ撮ってもらって燕山荘を目指す。電池切れで頼りないマイカメラでも頂上の名板を撮っておく。13:20 燕山荘到着。一泊 2 食で¥9,500。靴までビショ濡れで、合羽と一緒に乾燥室に入れるが明日までに靴が乾くとは思えない。濡れた身体はストーブで乾す。明日は中房に下るだけと、気を許してチビチビやっていたら夕飯までにすっかり出来上がってしまった。



燕岳頂上



証拠写真

10月1日(土) 曇、時々雨

5時半頃、天気が気になって外に出たら雨は止んでる。ガスも上がって、昨日はメクラ同然で何も見えずに通過してきた燕岳もはっきり見える。一応、燕岳を撮っておく。

6:04 出発、30 分前とは様子が違い、ガスに包まれ何も見えない。土曜日とあって登ってくるのが切れ目なし、擦れ違いが大変だったが合戦尾根も下りは速い。8:15 中房温泉バス停着。悠々8:30 始発のバスに間に合った。石原、日出平は穂高温泉郷の「しゃくなげ荘」で下車、醍醐さんは穂高駅側の駐車場に置いたマイカーで戻ってくる。温泉で汗を流した後は穂高駅そばの「一休」で蕎麦を食べて山行にピリオド、それぞれの帰途についた。

了

日光白根山と尾瀬ヶ原

倶楽部企画/ '11/10 月山行

記：石原達夫

期日 平成23年10月9日、10日

参加者 石原(L)、山村、長谷

かねて悪天候等で延期されていた皇海山に登るべく支度をしていたが、直前に所轄役場に問い合わせたところ、先の台風による大雨で発生した土砂崩れにより林道の通行は不可能とのこと。しかし山に出掛ける準備をして宿の予約もしていたので同方向の代替として、日光白根山に登ることにした。2日目は紅葉を期待して誠に久しぶりに尾瀬を訪ねることとなった。皇海山に登るならば従来通り、足利側から庚申山経由で行くことになる。

10月9日 日光白根山

赤城高原SAに7時前に集合、沼田インターで国道120号に入り、沢山の車で埋まる丸沼スキー場駐車場に1台置き、菅沼登山口に至る。

驚いたことに12年前には何も無かったこの場所に大きな駐車場があり、土産物屋、飲食店が軒を並べていた。ともかくこの駐車場の隅に車を駐車して、登山を開始した(8:25)。



登山開始

わずかの休憩のあと、覆い被さるように聳える白根山山頂を目指して急斜面を登る。わずかに傾斜の緩んだ尾根から振り返ると、弥陀ヶ池とやや大きい五色沼が白く光る。

水の涸れた小川の底のような道を行くとだんだんと急になり、涸れた沢のようなところを登る。可なり急だが、なかなか高度計は上がらない。やがて登山路らしくなり傾斜が緩むと前方が開けて日光のまぶしい弥陀ヶ池に着いた(10:10)、ここまで菅沼口からノンストップで来たことになる。



弥陀ヶ池



弥陀ヶ池とやや大きい五色沼

立つために長い列を作っていた(11:20)。丸沼スキー場のゴンドラ終点から山頂までは、日当たりのよいならかな道を2時間歩けば着くという。今後は日光白根イコール丸沼ゴンドラルートと云うことになるのだと思う。西穂高と同じ運命であろう。休むと風が冷たく、防寒着が欠かせない。陽だまりに陣取りゆっくりと昼食をとる。ガスコンロ2台が温かな昼飯を作る。山頂付近を出発し(12:30)、前白根の鞍部にある避難小屋に向かって下る。



山頂に立つために長い列

急で中くらいの岩がごろごろする嫌らしい斜面を25分ほど下ると岳樺の疎林に入り、ほどなく避難小屋に着く(13:05)。ほとんど素通りで五色沼に出る(13:20)。ここからは樹林帯の中のあなどれない登りで、登り切るとすぐに弥陀池に出る(13:55)。時間が気になるので、ここもほぼ素通りで、一気に出発点の菅沼口に向かう。よく登ったと云うほどの急斜面を下ると程なく菅沼口に着いた(15:20)。直ちに車に乗り、丸沼スキー場に行き、ここでソフトクリームを食べ少しリラックスする。ここからは車2台で今日の宿、片品温泉のプチホテル・たいむに到着する(16:20)。

10月10日 尾瀬ヶ原逍遙

ゆっくりと朝食後(7:10)、たいむのご主人に戸倉に送って貰う。

ここからは乗り合いタクシーにて鳩待峠に到着する(7:55)。

登山口でボランティアの指導員に、木道は必ず右を歩くようにくどく注意される。左側を歩くと滑って転び自費ヘリコプターの世話になるそう。木道には東電のマークが刻印され、東電の手になることが分かる。全延長は50数キロに及ぶという。今後はどうなるのだろうか。紅葉が丁度よいくらいで快晴の空に美しいシルエットを描き出す。



鳩待峠

中田代三叉路(牛首分岐)あたりから鳩待峠に向かう人たちとすれ違うようになる。ツアーと思われる団体、中高年の夫婦、若い女性の小グループというところで、私らのような中高年男性のグループはあまり見ない。正面に燧岳が一段と大きくなると、木立の中の竜宮小屋(10:25)に着くが、そのまま進む。急いでいる理由は尾瀬沼を抜けて大清水に出ようかと言う案が浮上してきたからである。弥四郎小屋を正面に、檜枝岐小屋等の山小屋が立ち並ぶ下田代十字路に着く(10:47)。ここで尾瀬ヶ原が尽きることになる

山の鼻に着き(8:52-57)、ビジターセンターの係員に残雪期の宿泊設備の様子を聞く。トイレに寄り、いよいよ尾瀬ヶ原に歩を進める。一面の柴紅葉、湿地の尽きる山の端からスカイラインまでは色とりどりの紅葉、振り返れば雄大な至仏山、それらが雲一つない抜けるような青空に映える。



尾瀬ヶ原



正面に燧ヶ岳

大清水に 4 時までに着くには、相当に急がないと困難との見通しとなり、それでは今日の逍遙の趣旨から外れるとのことで、今回は見送りとする。ゆっくりと昼食とする。たいむのおにぎり弁当がおいしい。仮設トイレに行くと、背後に一本の鮮やかな真っ赤な楓があり、その下に犬小屋みたいに小さいブルーのテントがあるのが面白い。温泉小屋方面に向けて出発する(11:40)。只見川上流に出てたところで檜枝岐への道に別れ、立派な東電尾瀬橋を渡る(12:05)。

少し樹林帯を歩くと東電小屋(12:14)、見上げると鶏のトサカのような景鶴山が見える。山頂は天然アスベストがあるという山だが、登山路は今どうなっているのだろうか。女性だけのツアーグループが定員以上にかたまって渡るヨッピー吊り橋に来る(12:29)。大勢の人が橋のたもとで休んでいるので、通過する。



景鶴山



ヨッピー吊り橋

この辺りは木道の改修中で、ヘリで運ばれた資材が所々に集積されている。とうとう休む適当な場所が見つからないまま牛首三叉路に着く(13:00)。ここでガスコンロが現れ、ホット紅茶を頂く(13:20)。のどかにたおやかな至仏山を正面に見て、所々に池塘をちりばめた柴紅葉の原を山の鼻に向かって歩く。今日一

日楽しませてくれた原に別れを告げ、山の鼻を出る(14:07)。鳩待峠へは残りのエネルギーを使い果たそうといつになく早足で登る。鳩待峠(14:54)では、ソフトクリームを食べながら、今日の山旅の余韻をかみしめ近隣の山を見る。乗り合いタクシーに乗り戸倉に着く(15:36)、程なくたいむの車が迎えに来た。たいむで温泉に入り解散となる。

四国の山旅

倶楽部企画/ '11/10 月山行

記：石原達夫

月日： 平成 23 年 10 月 18 日－10 月 21 日

参加者： 吉永、田矢(記録)、廣島(会計)、寺田(美)、石原(世話役)

10 月 18 日

羽田空港に集合し J A L 000 便にて松山空港に到着する(9:50)。レンタカーはトヨタ・アリオン、5 人とその荷物を入れるとぎゅう詰で、これで山道が走れるかと一寸不安になる。ともかく出発(10:20)。伊予街道を走り久万にて石槌方面に車を向ける。流石お遍路の地で、歩き遍路さんを見かける。石槌スカイラインは、走りやすい道で次第に高度を上げ石槌山の岩峰を左手に見るようになると、やがて土小屋の国民宿舎に着く(12:30)。



石槌スカイラインから見る石槌山

早々に身支度をし、石槌山を目指して出発する(12:52)。日当たりの良い尾根道は左手の面河溪谷の紅葉が美しい。山頂の岩壁の裾をトラバースするように付けられた日陰の山道を辿ると、開けた場所に鳥居があり、成就社からの表参道に合流する。一休みに良いところだ。いよいよ山頂に至る岩壁を登ることになる。まずは長さ 65m の二の鎖(14:17)、取り付けは 40 度位で容易に感じるが、段々と急になり 60 度を超す急斜面となり、いきおい真剣に登ることになる。鉄の棒を繋げたよ

うな鎖で、持ち上げることは出来ない。スタンスのないところは足を入れる鉄のトライアングルがあり、剥がれそうな岩はセメントで接着してあるが、フリクションの利かない登山靴ではスタンスに苦勞する。二の鎖が終わると、少し岩を登り、長さ 68m の三の鎖に到達する。



二の鎖を登る吉永さん



三の鎖を登る寺田さん

二の鎖で苦勞した人も、当然というような顔で登り始める。平均 60 度以下くらいか。今度の鎖は鉄の輪を繋いだようなもので、この輪は丁度地下足袋が入るサイズで、地下足袋の吉永さんは快適に登る。登り切れば、いきなりという感じで、弥山山頂・石槌神社に出る(15:15)。



石槌山頂神社

神社に参拝し、一息ついてから、弥山から続く岩稜の先にある最高峰の天狗岳 1982m に向かう(15:20)。天狗岳では大山まで見える大展望を楽しみ、写真を撮り(15:35)、また弥山に戻る。菓子類を少々食べ、下山に移る(16:10)。時間が迫っているので帰りは少し急ぐ。迂回路はしっかりした鉄やアルミの梯子等によく整備されていて、安全に素早く下れる。多くの人は、鎖は通らず迂回路から登るようだ。15 分足らずで、二の鎖下に着く。トラバース路は慎重に、尾根道

は早足で歩き、ヘッドランプが必要になる前に国民宿舎に着く(17:30)。

10 月 19 日

土小屋の国民宿舎から車に乗り(7:40)、今日最初の目的地、瓶の森山に向かう。瓶の森林道は完全舗装されていて安心して走れる。瓶ヶ森山は笹で覆われたなだらかな山で登り口に大きな駐車場を持つ(9:55)。人気のある山のようで、男峰と女峰の双耳峰からなる。幾分低い男山から登る(8:45-8:50)。

次いで女山 1896.2m に登る(9:05)。素

晴らしい展望で、石槌山から始まり、目を移せばこれから登る山々が見え、さらには直下に見える瀬戸内海の向こうには中国地方の山々が見える。山頂をあとにし(9:15)、駐車場に戻る(9:53)。



天狗岳



瓶ヶ森山頂

この山には、今は使われていないようだが大きな山小屋が 2 つもある。往時には宗教的な行事でも有ったのだろうか。曲がりくねった瓶ヶ森林道は単車線で、すれ違い箇所は限定されている。どういう訳か反対側から来る車はバックしない。一方的に我が車がすれ違い場所までバックすることになる。林道は山脈の南側のほぼ標高 1600m の等高線に沿ってあり、紅葉で美しい重厚な山容の西森山、黒森山の下を通る。様々な色合いの紅葉で飾られた伊予富士を過ぎる頃から林道は高度を下げ、旧寒風山トンネル入口に至る。ここからはヘアピンカーブの連続で更に高度を下げ標高 800m くらいまで下がって新寒風山トンネルのある国道 194 号に合わさる。車は 5 k m におよぶ新寒風山トンネルを通り抜け、国道を更に 6 k m 走ると、下津池に至る。ここからは笹ヶ峰に向かう笹ヶ峰林道に入る。初めのうちは舗装路だがすぐでこぼこの山道となる。高々 10 k m の距離と思うが約 800m 登る急坂で、満杯の車は車高が下がっているため、車の底をでこぼこの路面にぶつけないようにと、結構気を遣って運転したため、目的の駐車場所まで 30 分以上かかった。標高約 1000m の登り口となる所には車が数台止まっていた(11:50)。驚いたことにはマイクロバスまで止まっていた。山頂直下ですれ違ったマイクロバスで来た人の話では、死ぬ思いで乗ってきたという。木々に目を遮られた展望のない退屈な急路が続く。下山してきた人たちはいずれも憔悴しきった様子で、大変ですよ、という。うす暗い、元宿舎があったと思われる宿を通過すると(12:50)、丸木橋があり、これからは登りも緩くなり、あたりの様子も明るくなる。木々の間から垣間見る山頂は見上げるように高く、また遠い。飽きる頃に、分校のような大きな山小屋・丸山荘に着く(13:25-13:35)。ここには登山者が 3 人ほどベンチで休んでいた。女性軍は荷物を小屋に預け、山頂目指して歩き出す。樹林帯を抜けると急な笹の斜面となりジグザグで登る。転んだら丸山小屋まで落ちそうである。斜度が緩むと程なく笹ヶ峰 1859.5m

の山頂に着く(14:35)。

遮るもののない山頂で展望を楽しむ。銅山で有名な赤石山塊が眼前に見える。あまりゆっくりも出来ないので、下山にかかることになる(14:52)。みっしり茂る笹の山道を慎重に下り、丸山荘でリュックを受け取り(15:30)下山を急ぐ。駐車場には既に他車は1台もなく、早々に発車する(16:30)。既に予定より相当に遅れてはいるが、下津池までは慎重に運転する。国道 194 号に入れば速度は上がり、西条市の神戸にて国道 11 号に移り、いよ西条 IC で高速に乗る。井川池田 IC で高速を降り、今日の宿、大歩危祖谷温泉・あわの抄に着く(18:43)。



笹ヶ峰山頂

10月20日

ホテルを出発し(7:38)、今日の目的地・三嶺に向かう。有名な祖谷のかずら橋までは良い道だが、剣山方面に続く国道 439 号は改修されたとは言え狭い道路で、特に集落に入ると車 1 台やっと通れる幅となる。しかし住民には生活道路であるためか、狭い道の運転に慣れていて、すれ違いでこちらがバックすることはない。やがて登り口となる名頃に着く(9:07)。平尾谷林道は大雨で荒廃し通行不能、三嶺林道は工事用道路で一般車の通行は禁止ということで、結局名頃から歩くことになる。整備された駐車場を出て、新道という標識に導かれ、急な尾根に取り付く(9:17)。疎林の中に一直線に付けられた、登山路をひたすら登る。工事現場のある三嶺林道に出て、少し歩くと登山路が出てくる。ここが新道登山口に当たるらしい(10:00)。幅広い歩きやすい尾根道を登ると、右手から平尾谷からの旧道を併せる、ここがダケモミの丘というのであろう(11:11)。この辺りから鹿除けのネットが張られ、鹿の害の大きさが想像できる。急斜面を登り、樅ノ木の生える尾根に出たところで昼食とする(11:25-11:45)。尾根を外れ、急なガレ場をトラバース気味に登ると、ひょっこりと山頂稜線に出る。池があり笹原が美しい。笹原には縦横に鹿のけもの道が認められる。一登りで三嶺山頂 1893.4mに着く(12:25-12:45)。



三嶺の山頂

山頂からの展望は広く、笹の稜線が連なる高ノ瀬山、劔山が見える。立ち寄った山頂下の無人小屋は綺麗で快適そうである。さて下山にかかり、ガレ場では貸し切りバスで来た一行とすれ違う。今日は無人小屋泊まりという。下りは、ダケモミの丘(14:07)、平尾谷登山口(14:37)、名頃駐車場(15:10)とかなりハイピッチだが、流石に皆お疲れのようである。ユーモラスでリアルな案山子達に混じり写真を撮り、出発する(15:25)。時間の余裕があるので、奥祖谷の二重かずら橋

に立ち寄る(15:35)。500 円を支払い、溪に下りる。かずらで造られている吊り橋の男橋で対岸に行き、小ぶりの女橋で戻る。次に谷にかかる野猿(吊舟とも)という人力のロープウェイに乗る。小観光を楽しんだあと(16:05)、車は劔山下の見ノ越をへて、今日の宿舎のラ・フォーレつるぎ山に着く(16:30)。



案山子と人



祖谷 2重かずら橋

10月21日

一転天気は小雨となる。ラ・フォーレつるぎ山を出て(8:03)、見ノ越に車を止める。

登山リフトは9時からなので、先ずは劔山の名の所以になる劔神社に参拝する。

見ノ越乗り場(9:05)から登山リフトに乗り、西島の降り場に着く(9:19)。これより、大劔コースを登る。日本名水百選の御神水に立ち寄り、雨に霞む御塔石を後ろに従えた大劔神社に参拝し、山頂に向かう。劔山 1995mの三角点は注連縄で囲まれた珍しいものであるが(10:15)、風雨で見晴らしも利かず、早々に劔山頂上ヒュッテに入る(10:35)。



劔山山頂、三角点

親切な主人のいるヒュッテでは茶菓を食べ、めずらしくリラックスする(11:05)。下山は尾根道コースをとり、刀掛松を経て、西島駅を通過し劔神社に下る(12:00)。見ノ越から車でラ・フォーレつるぎ山に戻る(12:25)。管理人の好意による風呂に入り、昼食の鍋焼きうどんを食し、劔山に別れを告げて(13:35)、高松空港への国道438号を走る。途中ラ・フォーレの管理人の勧める鳴滝、土釜、貞光の二重うだつ等を見物し、空港レンタカーオフィスに着く(17:10)。ガソリン補給とかで手間取り(17:38)、レンタカー会社の送迎車

で高松空港に運んで貰い(17:41)、今回の山旅を終わる。参加者全員の息の合った行動で、ユニークで楽しい、また温泉ご馳走付きの贅沢な山旅を楽しむことができた。

妙義山忘年山行

倶楽部企画/ '11/12 月山行

記：武田頼子

日時： 2011 年 12 月 10 日(土)～11 日(日) 1 泊 2 日

集合場所：J R 碓部駅前 9 時 4 0 分

コース：道の駅「妙義」再集合－登山口 P－表妙義自然探勝路－中之嶽第一 P－宿

宿泊：碓部温泉・旭館

参加者：石岡慎介、小笠原辰夫、小亀真智子、醍醐準一、高橋聡、田矢八束、寺田正夫、寺田美代子、中野八千代、吉永英明、廣島孝子(会計)、武田頼子(記録)、石原達夫(世話役)

10 日の午前 9 時 4 0 分、碓部駅集合、公共交通機関では間に合わないので、伊勢の中野さんと打ち合わせて、夜の高速を走る。横川 S A で仮眠・朝食を取って 9 時頃出発し碓部駅に着く。妙義道の駅で再集合し、登山口 P へ移動。10 時 4 5 分登山開始。中間道とルートマップにあったので平坦な道を想像していたが、とんでもなく急登で岩場だらけで気の抜けない山だった。第一見晴らし、第二見晴らしと金鶏山や妙義の町などを眺めながら行く。自然探勝路中間点の「本読みの僧」の石がかわいらしい。なるほど本を読んでいると感心して手を合わせる。やがて急登の鉄階段が現れ緊張する。土踏まずにくい込ませながらゆっくり上がる。手すりも金属で冷たく直ぐ手の感覚がなくなり、手袋をはめてまた登る。間もなく「日暮らしの景」といわれる奇岩、怪岩が林立する場所に出る。



大砲岩、ゆるぎ岩などがあり、前方の岩は窓が開いている。岩や鎖を見ると燃える男性陣、冒険好きな女性陣が鎖で下降し、反対側の岩へ鎖で登り、狭い岩上に立っている。こちら側から見ている方がゾクゾクする光景……。登山道に戻

って、びっくりするほど大きい第四石門をくぐり、第二石門へ着く。こことカニの横ばいはまた鎖だが、ここは逃れられなくて覚悟を決めて登り、下る。男性陣

の的確なアドバイスで無事通過できた。そこを過ぎれば、後は下山口へ出るのみ。

のんびり下って、Pへ帰り、車で宿へ向かう。温泉でゆっくりし、夕食をおいしく頂き、一部屋に集まって大宴会、山の話が尽きなくて楽しい夜だった。

(注：この夜は皆既月食)

11日は、皆さんさん迷って、天気が良いから荒船山に登と出かけていく。

(別項参照)

中野さんと私は皆と別れて群馬県立自然史博物館で群馬を勉強し、昼過ぎ福島



第四石門（後方に大砲岩）

の温泉へ行く中野さんを高崎駅へ送る。

その後一人で埼玉県

の御岳山へ天然記念物の「御岳の鏡岩」を見に行く。麓の金鱗神社（カナサナ）へ駐車し、15分程階段状の山道を登り、鏡岩を見、5分程登って御岳山(343m)

頂上。一応、埼玉県神川町だが群馬県の鬼石町がよく見える。下って鬼石町の八塩温泉に泊まる。

12日は桜山公園の冬桜を見る。冬の桜も渋くてなかなか良い。次は三波川の三波石峡と二つの天然記念物を見て、吉井ICから高速に入り、帰路につく。一旦、地道にでて岡谷ICから中央道へ入る前の信号待ちで左手に南アルプス、八ヶ岳越に真白な富士山が意外に大きく見え、一人で大はしゃぎする。岡谷ジャンクションで東に行けば富士山をずっと見て走れるのだが、西へ名古屋方面へと行かねばならないのがものすごくやしい最後の締めだった。

三日間天気に恵まれ、雪で真白な浅間山、二度目のチャレンジでようやく登れた妙義山、最後に見た富士山、今日は最高の山行になった。

編者(石原)・注

群馬県立自然史博物館 <http://www.gmnh.pref.gunma.jp/index.html>

御岳山 <http://yamaon.ojaru.jp/kanasana.htm>

三波石峡 http://www.city.fujioka.gunma.jp/f_sanken/a002-1-01.html

桜山公園 <http://hottime.sakura.ne.jp/fuyuzakura/sakurayama.html>

荒船山登山 (忘年山行の続き)

記：石原達夫

期日：2011 年 12 月 11 日

参加者： 石岡、高橋、吉永、小亀、広島、寺田(正)、寺田(美)、小笠原、醍醐、石原
忘年山行明けの 11 日はどこに行くかについて、色々の案があったが、結局小笠原さんの案で、滅多に行けない荒船山に行こうということになり、白雲山に向かった田矢さん、それと自然史博物館等に向かった武田さん、中野さんを除く 10 名が荒船山に行くことになった。今日も昨日に続き天気が良い。カーナビに従って、国道 254 線を走る。途中今が収穫時の下仁田ネギを買う。荒船山の奇怪な岩壁が大きく見えるようになると下仁田トンネルで、さらに岩壁下に来たという感じになるとが内山トンネルで、この手前に登山者が何人か体操していた。内山峠経由の登山路をたどる人たちであろう。内山トンネルを過ぎると、岸壁は見えなくなり、初めての道なのでやや不安になる。カーナビは内山大橋を渡ったところで直ぐ左折の指示があったが、見落としてしまい、先から旧道に戻る。雪と氷の林道を疑心暗鬼で走ると、やがて目的地の荒船不動に着いた。大きなお寺である。



ここに 3 台の車を止め、(10:30) 浅い雪の登山道をたどる。雪道が沢から離れ、急坂を登り切ると、星尾峠(11:10)だった。ここから巻き気味につけられた道をたどり、やがて直登するようになると荒船山の長い山頂台地の一角に出た。平坦な、雪に覆われた笹の小道をしばし歩くと、山小屋があり、その先が目的地の艫岩(11:40)であった。「あまり先に行くと転落」という

看板があり、それでも出来るだけ前の方に行って、どっと開けた景色を見る。浅間山は認識できるがそれ以外の山は判らない。景色を楽しんだ後下山に移る。小屋には内山峠から登って来たと思われる一団がいい匂いをさせてラーメンを煮ているようだ。登ってきた道をそのまま下り、荒船不動に戻り、車に乗る(12:20)。登りにはあまり気にならなかった林道は途中の急坂が凍結していたので、道端に用意してあった、融雪剤を散布し無事切り抜けた。車は下仁田駅に行き(13:20)、ここで解散した。

山想倶楽部新年会

倶楽部企画/ '12/1 月

記：高橋 聡

参加者

石原、吉永、日出平、醍醐、田谷、小亀、寺田夫妻、石岡、高橋 10名

日時 平成24年1月12日

場所 飯田橋かくや

午後6時30には全員集まり、新年の乾杯の前に石原代表より大塚副代表が仕事の都合で山に行くことがかなり厳しいので、副代表を下りて広報専任にしてほしいとの連絡があったので、そのことを了解して欲しいと発言あり。参加者全員了承。

現在企画されているのは、今月末の妙高スキーと4月のお花見山行(幹事石岡氏)と6月の大佐渡(幹事小笠原氏)のみであるが、今後皆さんにいろいろと企画を出して貰い実行して行く予定ですので、楽しい山行を続けて行けるようにしましょうと全員確認しあい、乾杯の後9時過ぎまで楽しい時を過ごしました。



北八ヶ岳（横岳～蓼科山）

個人山行/ '11/3 月

記：中川秀利

山行日：2011年3月19日（土）

集合場所・時間：白樺湖きつつき山荘集合

コース 7:00 出発ーピラタスロープウェイ利用

8:00 開始ー横岳ー天称ヶ原ー將軍平ー蓼科山ースズラン峠

歩程：約9時間 健脚向き

参加者：3名 横田昭夫、中川美佐子、中川秀利

コースタイム：8:00 女神茶屋ー9:30 鞍部ー11:30 蓼科山ー15:00 女神茶屋

参加者：横田昭夫、中川美佐子、中川秀利 3名

今日の天気予報は午後から雨、コースを変更して蓼科山を女神茶屋より往復としました。今回の登山は玉山公園管理局の入山許可条件の一つでもあります。3 カ月以内に 3000mクラスの雪山で訓練せよ（写真提出）

又装備冬山スタイル登攀道具も義務付けられ、山岳ガイド1名、登攀ガイド1名です。冬季条件は4月末まで規制されるそうです。蓼科山（天気、晴れのち雨）

8:00 女神茶屋ー9:30 鞍部ー11:30 蓼科山ー15:00 女神茶屋 今年は雪解が遅いです。頂上付近では風強く完全防衣でした。



唐尾峠（1,610m）

個人山行/ '11/3 月

記：横田昭夫

山行日：2011 年 3 月 26 日（土）雪曇り吹雪

コース：山之村和佐府→林道→左派生尾根→飛越国境稜線→唐尾峠（往復）

歩程：登り 3 時間、下り 1 時間 20 分

装備：冬山装備一式、山スキー、シール、ビーコン、スコップ、ゾンデ棒

参加者：5 名 横田昭夫外飛騨山岳会員 4 名

コースタイム：8:30 和佐府→9:00 尾根取り付き→10:00 やせ尾根→11:50 唐尾峠→12:15
～12:50 昼食・滑降準備→13:35 和佐府

☆行動記録

飛騨で朝起きると昨夜は何もなかったところに約 10 c m の降雪。止み間なく降り続けている。高山の天気予報ではしだいに晴れ間が出てくるということだったので向かうこととする。神岡から山之村への道路はまだ除雪してなく、約 10～15 c m 積もった新道を登る。途中除雪車に何台か会う。伊西峠を越えると景色は一転する。

雪の多いことは例年のことなれどやはりこの時期にこの雪を見ると感動せざるをえない。登山口の除雪を広くしたところに車を止め、シールを付けて歩きだす。この時期完全に固まった雪の上に薄っすらと積もった雪を予想していたが予想とは大違い。林道でも 30 c m 有り、尾根に取り付きかかるとその量は倍加した。そのためラッセルに時間を費やし約 1 時間余分に要した。下りは新雪が深く、雪に突っ込むとスキーが止まってしまう、雪崩の注意をしながらもここでしか味わえない深雪を楽しんだ。



台湾・玉山（ユイシャン、3,952m）山行報告

個人山行 '11/4 月

記：横田昭夫

期日：2011年4月4日～4月9日

参加者：CL中川秀利、横田昭夫、中川美佐子

現地ガイド：施梅齡（シー・メーリー女性34歳）、

鐘澤仕（ジョン・ツーシー、36歳）

現地ポーター：幸益真（シー・サン、42歳）

台湾最高峰玉山（3952m）の登山計画はCL中川秀利氏が2009年に計画したが、2009年は台風20号の影響で、一般道路山道の復旧工事が遅れ台湾公園管理局は2010年3月までの入山禁止を通達し、やむなく雪山（シュエシャン）へ方向転換となった。また2010年はCL中川秀利氏自身の体調不調で実行はならなかった。2011年に必ず実行するとの意気込みで調整を進めたが、2月末の大雪で残雪が多く、頂上直下の急斜面の通過にたいしてする台湾公園管理局の不安が大きく、同局から冬山の重装備を要求されることとなった。また登山ルート途中にある排雲山荘は建て替え工事のため使用することができず、当初、示された案は第1日塔塔加鞍部登山口～圓峰山荘、第2日圓峰山荘～玉山主峰・玉山北峰～圓峰山荘、第3日圓峰山荘～塔塔加鞍部登山口であったが残雪のため、下記のような日程になった。

4月4日（月）曇り

「東京→成田→台湾桃園空港→新幹線桃園→新幹線嘉義→阿里山」

西武新宿線鷺ノ宮駅まで、中川氏宅のお隣のご主人に送ってもらう。ここから高田馬場、日暮里経由で、成田空港へ。成田空港について荷物預け搭乗券を貰ったら、ぐっと腹が減ってしまい、飲食コーナーで生ビールとうどんを食べる。成田空港まで来る電車の中ではこの度の大震災の直後だけに周りの人の目が気になった。

台北の桃園飛行場に着くと。大寶旅行社の現地ガイド許雅慧女史が待っていてくれて新幹線桃園駅へ送迎車で移動する。新幹線はJR東海が技術協力をして建設したようで日本の新幹線と車体はほとんど同じに見えた。嘉義駅では山友公司山岳ガイドの施梅齡（シー・メイリー）が迎えてくれる。山友公司の送迎車で阿里山閣大飯店に向かう。

途中、2009年の大雨による災害の爪痕がまだ残っており復旧を急いでいる状況だった。阿里山閣は台湾の一大観光地でマイカーがものすごく入り込んでいる。

『コースタイム』

5:00 起床 6:00 出発→7:40 成田・9:25 成田発→13:20 台北→14:57 桃園駅→16:00 嘉義駅→17:30 阿里山大飯店・18:30 夕食 21:00 就寝

4月5日（火）晴れ

「阿里山閣大飯店→塔塔加鞍部...モンロー亭...白木林觀亭台」

昨夜はなんだか小寒いようでトイレばかりいって眠れなかった。バイキングで軽い朝食。登山準備し出発。途中入山許可の確認と装備のチェックを受ける。塔塔加鞍部の登山口まで送迎車で行く。ここからも曇っていて、高いところは雲に覆われて見えない。今日は緩やかな山道を5kmの行程なので、慌てることなくゆっくりと歩く。シャクナゲが満開近くの状態です。丁度見ごろであった。今日の行程としては排雲山荘へ入るのが明日の行程も短くなるし、今日の足慣らしとしてもよいのだが残念ながら排雲山荘は改築中で使用不可のため手前3.5kmの白木林観亭台での幕営となった。

『コースタイム』

5:30 起床 6:30 朝食 7:40 出発→8:15～:40 入山チェック→9:05～9:30 塔塔加登山...10:05～:25 休憩...10:45～10:55 モンロー亭...11:50～12:35 昼食...13:10～:15 休憩...13:45 白木林観亭台 17:30～18:00 夕食 19:00 就寝

4月6日（水）晴れ

「白木林観亭台...大障壁...排雲山荘...玉山主峰往復」

3時起き、4時15分出発、帰着20時30分というかなり時間的に長い行程となった。ヘッドランプをつけての行動は久々の上に帰りも夜にかかったため、またヘッドランプのお世話になることとなってしまった。排雲山荘は建て替え工事中でヘリが盛んに資材を運んでいたが、まだ基礎工事もできておらず予定の7月16日に完成するのか疑問なものだった。ここでゆっくりと休憩し出発する。圓峰小屋への三叉路から少し行くと完全に森林限界(3600m)を抜け、落石の危険個所の通過となる。かなりの岩屑が落ちてきている。夏道といわれるジグザグ道を避けショートカットの鎖沿いに登る。かなりの急斜面だ。雪の量はそれほどない。シェルターで山岳ガイドの指示でピッケル、アイゼン、ハーネスなどの装備を身につけて向かう。北峰との分岐から斜度は急となり鎖沿いに玉山主峰に着く。頂上は良く晴れており紺碧の空とともに四方の山々が望まれる。といっても大田は玉山山脈の山々である。少し遅め目の昼食をゆっくりと取り、と記念撮影を済ませ下山に入る。

北峰との分岐地点で不要となる装備を外し軽くなる。ここからは長いくだりが待っており、疲れも出てきて足も重くなる排雲山荘で休憩し、少し行くと暗くなってしまいヘッドランプを点ける。暗闇の中、満天の星空を眺めながらの下山しようやく白木林観亭台の幕営地に着き軽い夕食をいただき早々に寝袋に潜り込む。

『コースタイム』

3:00 起床 4:15 出発...5:40～:50 大障壁...7:15～7:50 排雲山荘...8:45～:55 圓峰小屋分枝三叉路...9:35～:50 休憩...10:15～:30 休憩...11:05～:45 シェルター（装備する）...13:05～14:30 主峰玉山...15:15～:30 北峰分岐...16:05～:25 休憩(3794m)...17:00～17:05 休憩...17:40～:55 排雲山荘...20:40 白木林観亭台 21:45 就寝
4月7日（木）晴れ

今朝も良い天気だ。入山時の曇った天気は何かえ行ってしまうとこのところよい天気だ。朝食を済ませ、テントを畳み荷物をまとめて出発する。今日は台北へ戻ってホテルに

泊まりおいしいご馳走が食べられると思うと気分も良い。天気が良いので早い花が咲きだして、目を楽しませてくれる。やはり山は春がいい。塔塔加鞍部までの道みち目に付く草花をカメラに収めてゆくので少々遅れは許して貰える。塔塔加鞍部に着くと施梅齡からビニール袋に入ったビール5本ばかりを手渡される。いやー、少しぬるかったけど美味しいことこの上なかった。ここから山友のワゴン車に乗り途中、山岳ガイドの鐘澤仕（ジョン・ツー・シー）の車からトランクを出し、今日は台北まで行けばいいので大急ぎでとりあえず荷物を詰め替える。友会社の送迎車で嘉義駅まで送って貰い、ここから新幹線で台北に向かう。台北の駅からホテルへ行くのにトラブルがあった。タクシーは大きいトランクをもっていると一人しか乗せないと言い、3人別々に乗ったら自分の乗ったタクシーはとんでもないところへ連れてゆき無駄な時間を食ってしまう。お陰で風呂へ入る時間がなく、急いでシャワーをして迎えに来てくれたメイリーとともに食事の場所へ地下鉄で行く。場所はどこだけ覚えていない。台湾登山協会の張玉龍氏と同協会の2名に山友公司陳國鈞氏の8名での会食をする。話題に登ったのはJACの神崎氏との出会いや台湾山岳協会のことなど様々のことであった。

『コースタイム』

「白木林觀亭台...モンロー亭→塔塔加鞍部→嘉義站→台北站」

6:00 起床 7:00 朝食 8:10 出発...9:00~:10 休憩...9:28 玉山前峰分岐...9:58~10:20 モンロー亭...11:05~11:45 塔塔加鞍部登山口→12:20 パッキング→15:05~15:36 嘉義站→17:00 台北站→17:50~18:30 福容大飯店→19:00~20:30 会食→21:00 福容大飯店 22:40 就寝

4月8日（金）晴れ

大寶旅行社の現地ガイド許雅慧女史の案内で午前中、烏来を観光。台北に戻って台湾料理に舌づつみを打つ。その後、お土産屋さんを回りそれぞれ物色する。よるは士林の屋台店の体験。広大な屋台店のお客のパワーに圧倒される。

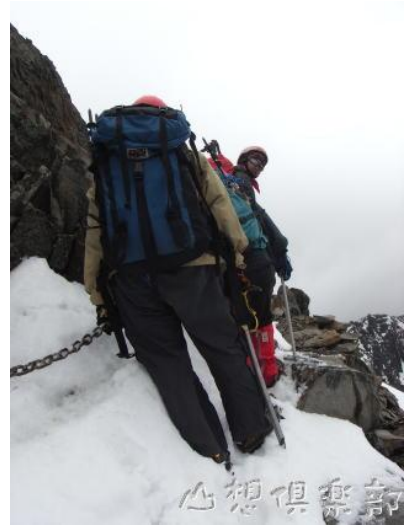
『コースタイム』

5:00 起床 6:30 朝食 8:30 出発→8:50~9:27 地下鉄→9:40 バス→10:25~:29 トロッコ→10:30~11:30 烏来→11:40~12:15 バス→12:16 昼食（ディンタイホン）→16:40 福容大飯店→21:00~23:30 士林屋台→24:00 就寝

4月9日（土）晴れから曇り

烈士祠、故宮博物院を見学し帰途に着く。

5:00 起床 6:30 朝食 8:30 出発→10:00~10:30 烈士祠→10:40~11:30 故宮博物院→12:30~13:20 昼食（シンヨウ）→14:40 福容大飯店→15:00~16:35 台北桃園空港→20:40 成田空港→23:30 東京



中央アルプスの三の沢岳

個人山行 '11/5 月

記：石原達夫

5月15日に中央アルプスの三の沢岳に行ってきました。

千畳敷カールで遊ぶスキーヤーやボーダーで一杯の始発のロープウェイに乗りました。



一般のスキーヤー、ボーダーは千畳敷カールで滑る

アイゼン、ピッケルがないと稜線に登ることが禁止されている。

右端に見える小さい粒がスキーヤー達。写真では見えにくいですが、短いロープトウがある。

朝の気温が氷点下だったので雪は堅く、稜線の極楽平までは、アイゼンで快適に直登しました。

ここから先の三の沢岳方面は2人連れの登山者だけで静かなものでした。

極楽平から宝剣岳方面に雪のついた長そうな斜面をもとめて登り、伊奈川源流を三の沢岳直下まで滑り込み、シールで三の沢岳を目掛けて登り返しました。

シールで急斜面をジグザグに登るとき、雪が緩んでいて表面の雪が流れやすく、クトーが有効でした。



極楽平より伊奈川源流を望む

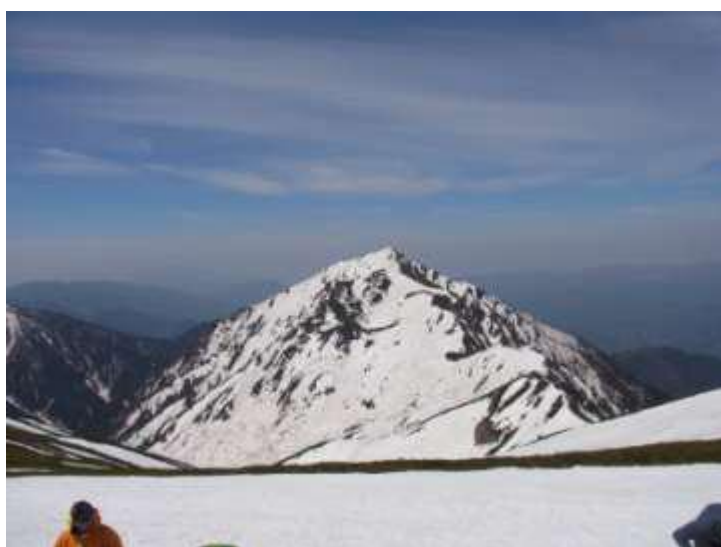
極楽平から宝剣岳方面に雪のついた長そうな斜面をもとめて登り、伊奈川源流を三の沢岳

直下まで滑り込み、シールで三の沢岳を目掛けて登り返しました。シールで急斜面をジグザグに登るとき、雪が緩んでいて表面の雪が流れやすく、クトーが有効でした。



左端が駒ヶ岳、中欧の尖ったところが宝剣岳
三の沢岳山頂下の稜線より望む

稜線直下は、氷混じりの急斜面なのでアイゼンに履き替えました。背景は宝剣岳と木曽駒です。写真で宝剣岳の右側に見える、狭いが何とか下まで繋がっている一番長く見える雪の斜面を滑ったことになります。



極楽平から見る三の沢岳
山頂右下の肩から滑る
すぐ這松帯に遮られ右に出て
斜滑降気味に下る

三の沢岳の山頂右斜面は結構急斜面ですが快適でした。しかし眉状に見える藪に阻まれ数ターン程度で終わりました。後は長い斜滑降でした。

シールで極楽平に登り返し、ゴンドラ側はあっという間に駅入口に滑り込みました。期待して出かけた伊奈川源流は、来るのが少し遅かったためか雪が少なかったです。2-3日前に1メートルほど融けてしまったとのことでした。這松や岳樺は出ていましたが、デブリは全くありませんでした。

台湾・南湖大山（3742m）4泊5日

個人山行 '11/6 月

記： 中川秀利

台湾 7 峰、玉山（3952）登頂、雪山（3862m）登頂、南湖大山（3742m）登頂、秀姑巒山（3825m）、大霸尖山（3740m）、中央尖山（3705m）北武大山 3092m

今回の山行は台湾建国 100 周年の祝いということで台湾山岳協会記念行事として 7 峰登山を行っています。その内の一峰で台湾の若者 20 名と老人（69 歳）の混合隊で登りました。連中は早いペースでついて行くのがやっとでした。なんとか登頂できました。5 月中トレーニングを駅の階段（50 段）を 30 回毎日軽走したおかげで登頂を成功しました。

6 月 2 日 晴れ、羽田発—台北松山機場 13：00、山友公司挨拶 19：00 台北駅集合専用バスにて宜蘭県南村民宿 11：00（泊）タイヤル族集落

6 月 3 日 晴れ、民宿 5：00 バス—登山口 6：00—雲陵山荘 16：00 泊

6 月 4 日 晴れ、雲陵山荘 5：00—南湖北山—五山—南湖山荘 16：00 泊

6 月 5 日 晴れ、南湖山荘 3：00—南湖大山—東峰—山荘—雲陵山荘 16：30 泊

6 月 6 日 晴れ、雲陵山荘 5：00—登山口 11：00—バスにて宜蘭飯店で昼食会—台北 19 時

6 月 7、8 日 山岳協会の張先生等皆様と会合、台北の夜を楽しむ。

◎ 南湖大山（3742m）

中央山脈の北部に位置し、山脈内の最高峰であります。日本の南ア北岳と似た感じがします。

上部の南湖山荘はカールの中にあり神秘的の地形であります。



台湾・秀姑巒山（3805m）登山報告

個人山行 '11/10 月

記：中川秀利

期日、 2011 年 10 月 27 日～11 月 2 日

参加隊員、 C L 中川秀利、大蔵喜福、横田昭夫、醍醐準一

山岳ガイド 施梅齡、ポーター2 名（布農族）計 7 名

この山は、台湾五山に示されており五山中難度が一番高い山です。

入山許可申請が厳しく手こずりました。それだけに自然保護環境も良く素晴らしい景観を楽しめました。自然そのままで大崩壊地の連続です。鎖、ロープも無く崩壊地は足跡たよりに歩かねばなりません。黒部廊下より深い谷を見ることができます。雨天、夜間を歩く事は無理でしょう。幸い天気恵まれ幸運でした。

10 月 27 日

台湾松山空港より連絡車にて 5 時間、宿泊地東甫温泉飯店へ到着 20 : 00

10 月 28 日

朝食後 7 : 00 車一登山口 7 : 30 ポーターに荷物分配—瀑布を見ながら廊下を歩く今日の路は危険度もなく緩やかに登る、観高小屋到着 17 : 00 歩 1 5 k m



登山口、荷物分配（ポーター）

10 月 29 日

出発 4 : 00—崩壊地 6 : 00—八通灌湿原
9 : 00—八通灌山往復 12 : 00—崩壊地—
中央金鉾小屋 16 : 00 歩 12 k m



崩壊地トラバース



八通灌湿原

10月30日

出発 4:00ー白洋小屋ー秀姑巒平ー秀姑巒山 11:00（往復） 小屋到着 16:00



秀姑巒山（中央尖がり）



頂上直下トラバース



秀姑巒山（3805m）左より横田、大蔵、醍醐、中川、ガイド梅齡

10月31日

小屋 4:00 出発 今日 27km を下る崩壊地を経て 15:00 東甬温泉到着連絡車にて台北へ宿泊福容大飯店

11月1日

台湾山岳協会の皆様と九份観光をする。夕食会は 9 人で雲南省料理を馳走になる。

11月2日

故宮博物館見学、16:00 松山空港。帰国



九份観光、茶館にて台湾山岳協会の皆様と

◎台湾五山 登頂完了（玉山 3952m、雪山 3886m、南湖大山 3748m、秀姑巒山 3805m）
未登頂（北大武山 3090m）来年 3 月末予定

台湾・北大武山（3090m）登山報告

個人山行 台湾五山登頂（玉山、雪山、南湖大山、秀姑巒山、北大武山） 記：中川秀利

期日 3月26日～4月3日

隊員 中川秀利、ガイド施梅齡、ポーター蔡明 計3人

行程

3月26日 羽田発—台湾松山空港（施梅齡出迎え）—新幹線高雄駅—専用車でパイヤル族の民宿へ夕刻到着（泊）

3月27日 専用トラックで登山口まで1時間登山口8：00—14：00 檜谷山荘気温平地30度 山間22度 とにかく暑い。



登山口（蔡ポーター、中川、梅齡ガイド）

3月28日 檜谷山荘5：00—稜線10：00—北大武山12：00 昼食—檜谷山荘17：00 今日の行動は歩11時間 途中シャクナゲがきれいでした。



後方北大武山



北大武山頂上

3月29日 檜谷山荘 下山 12:00 民宿到着—高雄飯店（泊）

30日 高雄市内観光—嘉義市（ガイド梅齡運転）嘉義（泊）

31日 嘉義一日月潭湖、ツォ族観光 甫里飯店（泊）

4月1日 霧社部落タイヤル族視察、モーダ・ルナオ御霊、生家、曾孫と挨拶
案内を受ける。高速道路で九份の民宿（岳友施宏明）へ夕刻到着



モーナ・ルダオ烈士墓



モーナ・ルダオ生家（復元）

2日 平溪観光 台北（泊）

3日 中華民国山岳協会訪問、五岳登頂証明證、山岳協会會員證を頂く。



五岳登頂証明證

16:00 台湾松山空港—羽田

次の目標は台湾三尖（中央尖山 3705m, 達分尖山 3135m 大霸尖山 3492m）

大霸尖山 6月10日～17日を予定。



草津本白根山のコマクサ

山 想 倶 楽 部 会 報 誌 V o l : 8

発行日／平成24年5月1日

発行者／日本山岳会同好会：山想倶楽部

編集人／石原達夫 高橋 聡 大塚幸美